NICHIDAI INFORMATION

決算説明動画配信のご案内

当社のYouTubeチャンネルにて、2025年3月期決算動画を配信しております。ホームページのリンクまたは下記二次元コードからご視聴可能です。

アクセス方法

パソコンから　https://www.nichidai.jp

スマートフォンから

二次元コード読み取り機能のついたスマートフォンをお使いの方は、右記からアクセスいただけます。

PLAY BALL!
～ニチダイ硬式野球部便り～

当社硬式野球部員は、都市対抗野球・社会人野球日本選手権出場を目指し日々練習に励んでおります。また、地域貢献活動の一環として、地元中学校の野球部を訪問しました。守備・打撃練習や紅白戦を通じて中学生と交流し、教室では「夢を持つことの大切さ」などについて語り合いました。後日、生徒たちから感謝のお手紙もいただき、有意義な時間となりました。
今後も地域とのつながりを大切にし、活動を継続してまいります。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告 当社ホームページ(https://www.nichidai.jp)にて掲載
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 TEL.0120-094-777（通話料無料）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社　全国本支店

ご注意

1. 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

株式会社　ニチダイ
NICHIDAI CORPORATION
本社 TEL.（0774）62-3481（代）

ニチダイグループの詳しい情報については、右記二次元コードからホームページでご覧いただけます。
https://www.nichidai.jp

VEGETABLE OIL INK

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C022337

NICHIDAI REPORT

証券コード　6467

Vol.47　2025年3月期
2024.04.01～2025.03.31

特集

独自技術が拓く、ニチダイの未来戦略

TOP MESSAGE

収益基盤強化を着実に推進、さらなる成長へ

収益基盤強化を着実に推進、さらなる成長へ

代表取締役社長 執行役員
伊藤 直紀

1. 当期2025年3月期 業績の概況
黒字転換と収益基盤強化

当期（2024年4月1日～2025年3月31日）の世界経済は、地政学的リスクの高まりや主要国での金融引き締め継続により、依然として先行き不透明な状況が続きました。中国経済の成長鈍化や不動産市場の不安定化、米国の関税政策の動向なども、当社グループの事業環境に影響を及ぼす懸念材料となりました。日本経済は緩やかな回復基調を示したものの、世界経済の減速や物価上昇の影響を受け、回復ペースは抑制されました。一方、当社グループの主要顧客である日系自動車産業におきましては、部品供給不足はおおむね解消され生産台数は回復傾向にあります。しかし、コロナ禍以前の水準には達しておらず、認証不正問題の影響も影を落としている状況です。また、自動車産業のEVシフトは一時的に落ち着いているものの、電動化・次世代化の流れは継続しており、当社を取り巻く経営環境は引き続き大きく変動しております。

こうした状況のなか、当期の連結業績は、売上高116億2百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益1億5千3百万円（前年同期は4千2百万円の営業損失）、経常利益1億8千5百万円（前年同期比185.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益5千6百万円（前年同期比25.5%増）となりました。セグメント別では、金型事業は、国内向けは前年同水準を確保したものの、アジア向けが低調に推移し、減収減益となりました。精密部品事業は、主力製品の需要回復や生産性改善により増収となり、損失幅も縮小しました。フィルタ事業は、国内向けは一部顧客の需要低下で減少したものの、海外向け、特にアジアでの回復とプロダクトミックスの良化により、増収増益を達成しました。前期に計画修正を余儀なくされた状況から、着実に回復への歩みを進め、営業利益、経常利益、当期純利益ともに黒字化を達成できたことは、ひとえに株主の皆さま、お取引先さまをはじめとする関係各位のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

2. 次期見通し
体制強化の成果発揮へ

次期（2025年4月1日～2026年3月31日）においても、自動車産業を取り巻く環境は、生産台数の回復基調は続くもののコロナ禍前の水準には達せず、米国の関税政策やEVシフトの動向など、不透明な状況が継続するものと予想されます。このような環境下、金型事業では国内外での顧客開拓を推進し増収を目指します。精密部品事業では主力部品の安定生産と生産効率向上により業績回復を図ります。フィルタ事業では、タイ子会社の合併に伴う移管を進めつつ、マーケティング施策強化による国内外でのさらなる拡販を展開し増収を見込みます。

これらの結果、次期の連結業績は、売上高121億円（前年同期比4.3%増）、営業利益1億6千万円（前年同期比4.6%増）、経常利益1億9千万円（前年同期比2.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1億円（前年同期比78.6%増）を見込んでおります。これまでの構造改革や生産性向上の取り組み、そしてタイ拠点の強化による効果を発揮し、着実な増収増益を目指してまいります。

当期計画、当期実績及び次期の見通し

（百万円）

	2025.3 通期計画（2024年5月発表）	2025.3 当期実績	2026.3 次期計画（2025年5月発表）	伸び率
売上高	11,900	11,602	12,100	4.3%
営業利益	80	153	160	4.6%
経常利益	100	185	190	2.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	50	56	100	78.6%

※ 百万円未満は切り捨て

3. 中期経営戦略の進捗
構造改革と持続成長

当社グループは、「新たな価値を創造し社会に貢献する」という経営理念のもと、中期経営戦略「CHANGE～ニチノベーション2026～」を推進しております。戦略は折り返し地点を迎え、「CHANGE① VSOP精神※での顧客価値創造」「CHANGE② 社員が輝き続ける会社づくり」「CHANGE③ 持続可能な社会への貢献」の3本柱を着実に進捗させております。特に、構造改革と事業基盤強化においては、大きな進展がありました。2024年3月には、タイの製造拠点であるNICHIDAI (THAILAND) LTD.(以下NDT)を完全子会社化しました。これにより、意思決定の迅速化と機動的な事業運営が可能となり、金型・精密部品事業における販路拡大や新事業開発を推進する体制が整いました。さらに、同国内にあったフィルタ事業の製造子会社THAI SINTERED MESH CO., LTD.を2025年7月にNDTへ吸収合併し、タイにおける製造機能を集約・強化することで、より一層の効率化とシナジー創出を図ってまいります。また、人的資本経営の取組みとして、社員のエンゲージメント向上を目指した対話の機会創出や、多様な学びの機会を提供する研修制度の拡充(選択型研修の導入など)、ノー残業デー(ワークスマートデー)の推進、ベースアップを含む賃金改定などを実施し、社員が輝き続けられる環境づくりを進めております。サステナビリティ活動においては、12のマテリアリティ(重要課題)を特定し、地域貢献活動や環境負荷低減への取組みを開始しております。技術開発面では、鍛造DXと名付ける開発が進

捗し、複数の顧客への導入実績や、学会からの表彰を受けるなど、着実に成果が表れています。(※詳細→P.07、09)

※VSOP:Vitality(活気・生命力)、Specialty(専門性・技術)、Originality(独創性・創意)、Passion(情熱)の頭文字。当社の創業から受け継がれている精神。
当社の経営ビジョンに含まれている。

4. 製造機能の強化
タイ拠点統合によるシナジー創出

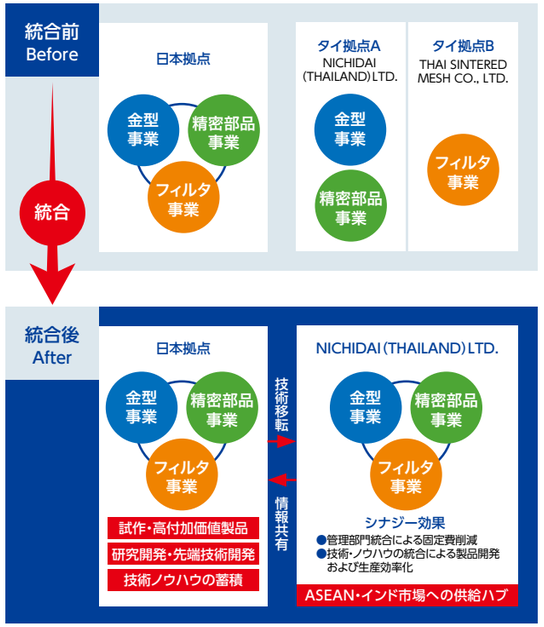
これまでタイには、金型・精密部品事業とフィルタ事業の製造拠点がそれぞれ別に存在していましたが、これらをNDTに一本化することで、タイ拠点をASEAN・インド市場への供給ハブとして強化し、以下のようなシナジー効果の創出を目指します。

技術・ノウハウの融合
精密部品事業が持つ量産技術・ノウハウと、フィルタ事業が持つ独自技術・製品開発力を融合させることで、新たな高付加価値製品の開発や生産プロセスの革新を目指します。例えば、フィルター製品の量産化を精密部品のノウハウで効率化を図る、あるいは精密加工技術を応用した新たなフィルター製品を開発する、といった展開が期待できます。

事業間連携によるソリューション提案力強化
金型・精密部品・フィルタという3つの事業の連携を強化し、顧客に対してより包括的なソリューションを提供できる体制を構築します。

製造効率の向上とコスト削減
管理部門の統合や生産ラインの最適化により、固定費削減と生産効率向上を実現します。

タイ拠点統合による変化とシナジー



5. 世界市場への展開方針
グローバル戦略の加速

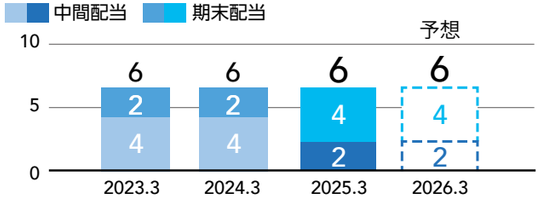
タイ拠点の強化を軸としつつ、他の地域戦略も推進します。成長市場であるインドにおいては、代理店との連携と当社独自の探索の両面を駆使し、当社の強みが活かせる領域での事業拡大を目指します。また、課題であった米国市場についても、改めて市場調査や顧客開拓に着手しており、3事業において新たな事業機会の探索を進めてまいります。中国市場は、現地メーカーとの競争激化等の課題もありますが、引き続き重要な市場と捉え、高付加価値分野へのシフトを進めます。

6. 安定配当と将来への投資
配当について

当社グループは、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策と位置づけ、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を基本方針としています。この方針に基づき、期末配当は4円とし、中間配当2円と合わせ、当期の年間配当金は計6円とさせていただきました。また、次期の配当につきましては、中間2円、期末4円の年間6円を予定しています。

私たちニチダイグループは、中期経営戦略「CHANGE」の期間を通じて新たに築き上げた事業基盤をもとに、次の飛躍に向けた挑戦を続けてまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

一株当たりの配当金



各事業の概況と次期以降の取組み

中期経営戦略は各事業領域で着実に成果を積み重ね、次なる成長への確かな布石を打っています。それぞれの事業を牽引する責任者が、これまでの進捗と成長戦略を自らの言葉で語ります。

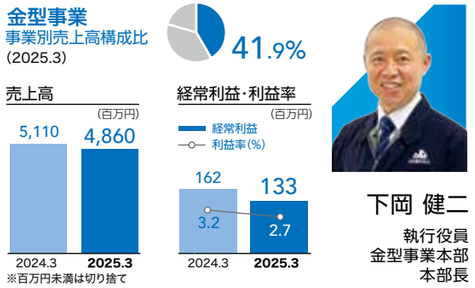
金型事業

これまでの成果、当期の概況

電動化関連高寿命金型開発や鍛造以外の新技術確立に着手し、収益改善活動も推進中です。当期（2025年3月期）は、国内は堅調もアジア向けが低調で減収減益となりました。お客さまの信頼に応えるべく、技術開発を継続します。

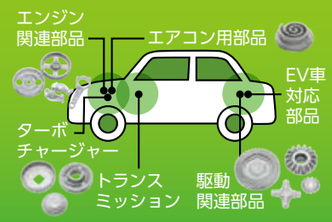
次期以降の取組み

次期（2026年3月期）は国内外での顧客開拓を進め増収を見込む一方、相互関税の影響を注視します。トヨタ自動車様と連携しセンシング技術の実装・拡大を進め、将来的にはデータ活用で顧客満足度向上を見据えます。Webマーケティングや、インド・ASEAN市場開拓も強化します。



下岡 健二
執行役員
金型事業本部
本部長

精密部品事業

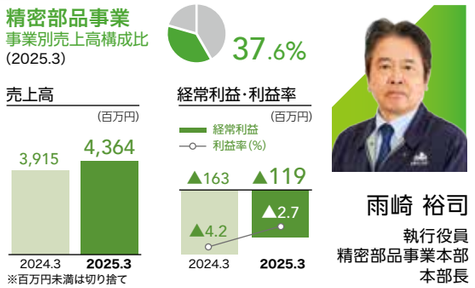


これまでの成果、当期の概況

NDT完全子会社化を背景に新規引き合い獲得の土台を構築しました。原価改善活動や新プレス導入による生産性向上も着実に進捗しました。当期（2025年3月期）は需要回復で増収も、経常損失を計上。収益力強化が喫緊の課題です。

次期以降の取組み

次期（2026年3月期）はNDTへの主力部品移管を円滑に進めつつ、EV向けスクロール開発・量産化とコスト競争力強化でさらなる収益改善に注力します。当社の強みである技術力を活かし、付加価値の高い鍛造部品獲得や新分野開拓に邁進します。



雨崎 裕司
執行役員
精密部品事業本部
本部長

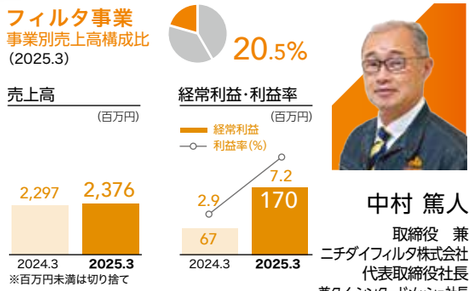
フィルタ事業

これまでの成果、当期の概況

当期（2025年3月期）は日本とタイで連携し、ASEANで伸長。Webマーケティング担当増員でHPコンテンツを充実させ、BtoBサイト経由の案件が増加しました。また、FCV（燃料電池自動車）向けやバラスト水用など環境貢献製品も進展しました。

次期以降の取組み

日本で定着したWebマーケティングをマーケティングミックスへと展開し、タイからASEAN・インドへも拡大を企図し、次期（2026年3月期）も増収を見込みます。これからは、Web環境による顧客獲得が欠かせない時代になるため、DX環境の充実を図ります。



中村 篤人
取締役　兼
ニチダイフィルタ株式会社
代表取締役社長
兼タイ・シンタードメッシュ社長

経営管理本部

これまでの成果、当期の概況

幹部研修等で組織風土改革が進み、事業本部間の意見交換が活発化。データに基づく投資対効果や収支の検討精度・スピードが向上しました。自己啓発を含む研修制度も好評です。従業員のエンゲージメント向上につなげています。

次期以降の取組み

データ構築・分析力を強化し、経営層への羅針盤的役割を果たします。キャッシュの有効活用も重要課題と捉え、改善に取り組みます。さらに、地域貢献活動を強化し、地域で育まれた実績と信頼を礎に、私たちはこれからも持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

酒井 学
執行役員
経営管理本部
本部長

経営戦略・新事業開発室

これまでの成果、当期の概況

センシング技術の事業化、北米を中心に新市場開拓、新技術開発による事業拡大、及び各事業の収益改善支援に着手。まだ緒についた段階ですが、着実に歩みを進めています。各事業部や外部との連携が成功の鍵です。

次期以降の取組み

ハンズオンと建設的関与を基本方針に、センシング技術事業化と海外市場開拓の足場確立を最重点テーマとします。ニチダイの強みであるニッチトップビジネス、人材、技術革新力を活かし、10年後、20年後を見据えた新事業育成を進めます。

藤田 博文
執行役員
経営戦略・新事業開発室長
兼ニチダイU.S.A社長

特集

独自技術が拓く、ニチダイの未来戦略

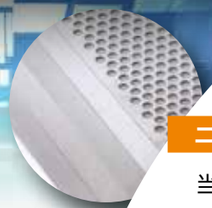
当社は「CHANGE〜ニチノベーション2026〜」を中期経営戦略として取り組んでいます。その達成に向けた取組みを2つ取り上げます。

金型事業の「鍛造DX」ではデータが製造の常識を変え、フィルタ事業では地球と産業に貢献する技術が深化。
それぞれの挑戦が、お客様、そして社会全体の可能性を広げていきます。

ニチノベーションの最前線

金型事業／鍛造DX

当社は、新しい技術を開発するという強い想いのもと、センシング技術を活用した「鍛造DX」の開発を推進。産学官が連携して立ち上げた「IVI（インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ）」に参加し、異業種のメンバーとともに技術開発を進め、IVI各種アワードをはじめ、2025年には日本塑性加工学会から最優秀賞にあたる論文賞（※詳細→P.09）を受賞するなど、業界内でも高い評価を得ています。



鍛造DXの特長と提供価値

当社の鍛造DXは、以下の特長によりお客さまの競争力向上に貢献します。

独自のデータ活用技術

多次元のセンシングデータを一覧的に見える化する当社独自のシステムにより、現場課題の多面的な把握と解決を支援します。

環境負荷の低減

製造プロセス最適化や不良品削減により、省エネルギー化と廃棄物抑制を実現し、環境負荷低減に寄与します。

生産プロセスの最適化

データに基づく予知保全などで、計画的な金型交換を実施し製造プロセスを最適化。品質の安定、不良率低減、安定生産に貢献します。

センシング技術のトータルサポート

お客さまの課題に対し、最適なセンサ選定、金型設計製造、装置の設計製造、データの収集・可視化・活用までトータルでサポートします。金型を通じた新たな価値提供によりお客さまと継続的な関係を確立し、永続的な価値向上を実現します。

トヨタ自動車の協力による開発加速

鍛造DXの本格事業化にはビッグデータの活用が不可欠であり、膨大なデータを活用しているトヨタ自動車との協力体制により開発を加速させています。

着実な実用化への発展

トヨタ自動車の製造現場データを当社のセンシング技術でより実践的な形で可視化・分析。さらなるデータ活用の高度化に貢献します。

今後の展開

トヨタ自動車の協力を得たことで、システムの信頼性向上を実現し、より実用的な製品システムへ発展することを企図しています。今後の展開を見極めながら、最適な形での販売戦略を構築していきます。将来的には、データ分析サービスや金型寿命予測技術の活用など、新たなビジネスモデルも視野に入れています。

鍛造DXの詳細

フィルタ事業／フィルター・サイクル・ソリューション

独自の拡散接合技術を用いた高機能フィルターを提供。
また、「フィルター・サイクル・ソリューション（FCS）」と名付けた循環型ビジネスモデルにより、環境負荷低減とコスト削減に貢献します。

ニチダイフィルタの特長と提供価値

当社の積層焼結フィルターは、以下の点で優位性を持っています。

高い耐久性

独自の積層焼結技術により、高強度、耐熱性、耐薬品性（耐酸性）を実現。過酷な条件下での使用が可能です。

グローバル供給体制

国内（京都）およびタイの生産拠点から、グローバル市場の需要に対応します。

多様な産業への展開

食品、化学、医薬品、航空宇宙など、幅広い産業分野のニーズに応えるフィルターを提供しています。国産ロケットへの搭載実績もあります。

国際規制への対応

バラスト水管理条約適合フィルターなど、国際的な環境規制に対応した製品を提供します。

フィルター・サイクル・ソリューション（FCS）

フィルターの販売にとどまらず、使用済みフィルターの洗浄・再生を行う循環型ビジネスモデル（FCS）を推進しています。

業界例 ポリマー（樹脂）用フィルター

焼結金属ろ材を使用しているため、ポリマー製造プロセス特有の高粘度、高圧力、高温といった厳しい環境下での精密ろ過にも適合します。

フィルター再生洗浄サービスの詳細

NICHIDAI TOPICS

TOPICS 1 主要顧客2社からベストサプライヤーとして賞を受賞

当社の精密部品事業と、当社グループ会社のNDTがベストサプライヤーとして賞を受賞しました。両社とも表彰式が開催され、賞状や盾が手渡されました。

精密部品事業

このたび、三菱重工サーマルシステムズ株式会社様主催の「品質改善表彰式」が、2024年8月30日に同社 枇杷島工場にて開催され、当社は「最優秀賞」を賜りました。本表彰は、「年間を通じて品質不適合の発生がゼロであった取引先」を対象としたものであり、当社は2023年度において、不適合ゼロを達成することができました。今回の受賞は、日頃より品質向上に取り組んでいる全社員の努力の成果であり、今後も引き続き高品質な製品・サービスの提供に努めてまいります。

NDT

2025年3月13日、当社はIHI TURBO(THAILAND)Co., Ltd.様より、2024年度「ベストサプライヤー賞」を受賞いたしました。
本賞は、日頃のフォロー体制や管理能力に加え、品質および迅速なレスポンス対応など、総合的な取り組みが高く評価された結果としていただいたものです。
このたびの受賞を励みに、今後もより一層、品質・サービス・価格競争力の向上に努め、来年度以降も継続してご評価いただけるよう尽力してまいります。

左から、長野県工業技術総合センター：長洲 慶典様、ダイキン工業(株)：河田 健一様、当社：森 満帆、東京都立大学大学院：楊 明様

※論文賞とは、日本塑性加工学会誌「塑性と加工」に掲載された論文の内、優れた論文および総説に授与される賞。一般社団法人 日本塑性加工学会ホームページより引用(http://www.jstp.jp/about/award/outline/)

TOPICS 2 日本塑性加工学会　論文賞受賞

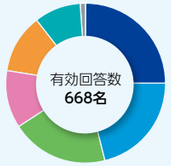
当社社員の森 満帆が代表執筆者となる論文に対し、日本塑性加工学会(以下、同会)より、『2025年度 論文賞』を受賞いたしました。論文賞とは、日本塑性加工学会の最優秀賞にあたる賞です。論文の内容は、当社が現在力を入れているセンシング技術を活用した鍛造DXに関する研究発表で、すでに多くの引き合いを頂戴しています。ハード・ソフトの両面で技術の進化を続け、より実用的な製品へと発展させていきます。

当社は、これからも技術革新を推進し、製造業の未来を切り開くために挑戦を続けてまいります。

論文名 「AEと型寿命影響因子との関係性の評価
-AEセンサを用いた鍛造金型の寿命予測　第1報-」

株主さまアンケート結果　たくさんのご回答、ありがとうございました

2024年11月に発行した株主通信 (Vol.46) で実施したアンケートに対して、
多くの株主さまからご回答をいただきました。下記に、アンケート結果の内容を、一部ご紹介いたします。



当社についてもっと知りたい情報

研究開発	25.1%	各事業概況	11.6%
製品情報	21.1%	財務情報	12.1%
経営方針	19.7%	会社概要	9.4%
		その他	1.0%

当社に対してのイメージ

安定性がある	33.5%	情報開示に積極的である	9.2%
成長性がある	31.5%	革新的である	4.3%
研究開発力がある	18.0%	その他	3.5%

ご意見 Q&A コーナー

Q 今回(前号Vol.46)のレポートは過去に比較しかなり内容的に深掘された内容で、努力された跡がうかがうことができます。日常的によりHPなどで開示情報を増やしてほしい。

A このたびは、株主通信の内容についてご評価いただき、誠にありがとうございます。日常的な情報開示の充実や発信頻度の向上についてのご意見も、重く受け止めております。今後は株主通信に加え、東証へのプレスリリースや当社ホームページなどを通じて、よりタイムリーで分かりやすい情報発信に努めてまいります。

Q 先般、トヨタとの技術上の関係が発表されて、株価が大きく反応したことは、IR発信の奏功であった。今後は、持続的な収益力の向上を期待したい。

A 鍛造DXは、センシング技術の新たな可能性を探求するもので、トヨタ自動車様に評価をいただき開発の協力合意に至りました。すでに多くのデータが活用されているトヨタ自動車様と当社独自のセンシング技術により、さらに実用的な製品システムへと発展していくことが期待されます。(内容については本誌P.07をご覧ください。)今後も当社はこのような技術革新を推進する挑戦を続け、持続的な収益力の向上を図ってまいります。

Q 教育制度の充実により、企業価値を高める人的資本経営の取組みを期待しています。

A 当社では変化が激しい現代の状況の中、社員の挑戦を歓迎する仕組みづくりに力を入れています。社員がチャレンジし、成長してキャリアを形成していくことが会社の成長にもつながると考えており、社員一人ひとりの成長を支援する教育・研修制度の強化に取組んでおります。
今後も、学びの機会の充実と職場環境の整備を通じて、多様な人材が活躍できる組織づくりを進めてまいります。引き続きご支援・ご期待を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Q 若い社員がたくさんおられて、各自が相当な技術力を持っておられるようで、自動車関連以外にも航空宇宙やフィルタ事業の活用が楽しみです。成長性のある会社であることが、株主通信で確認できました。

A このたびは、当社の成長性に対するご期待と、技術力に対する高い評価をいただき、誠にありがとうございます。若い社員が多く、各自が専門的な技術を持っていることは、当社の大きな強みであり、今後の成長を牽引していく原動力となっています。株主通信を通じて当社の取組みやビジョンをご理解いただけたことを大変嬉しく思います。
引き続き、株主の皆さまに信頼される企業であり続けるため、透明性の高い情報開示とともに、持続的な成長を追求していきます。

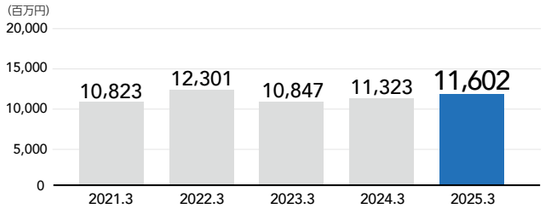
株主さまアンケート ご協力のお願い

当社では、今後の経営やIR活動に反映させていただくため「株主さまアンケート」を実施しております。ご意見、ご感想を同封のアンケートハガキまたは二次元コードを読み込み、ご記入いただきますようお願いいたします。

アンケートにご回答いただきました株主さまより抽選で
QUOカードをプレゼント ※当選者の発表は、QUOカードの発送をもって代えさせていただきます。

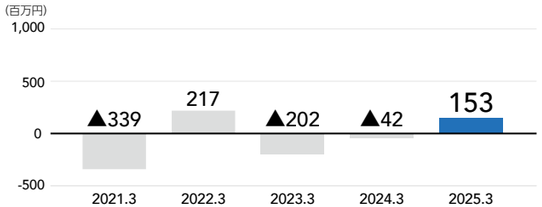
プレゼント対象期間:2025年9月末まで／アンケートは9月以降も実施しております。

売上高



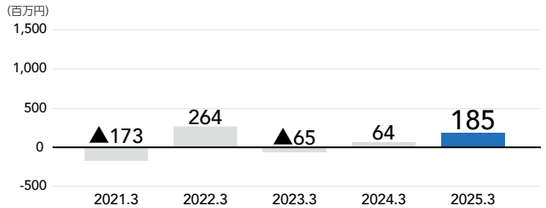
※ 百万円未満は切り捨て

営業利益



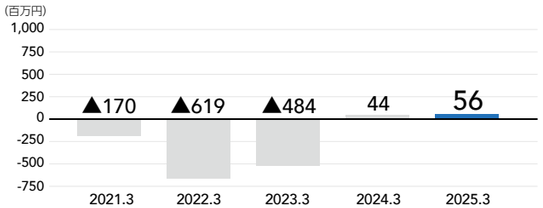
※ 百万円未満は切り捨て

経常利益



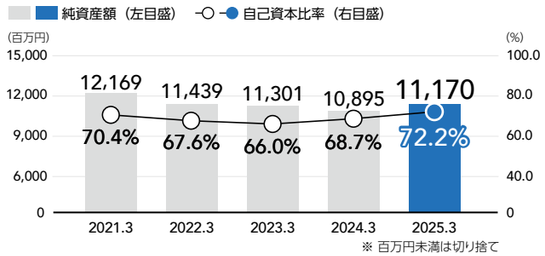
※ 百万円未満は切り捨て

親会社株主に帰属する当期純利益



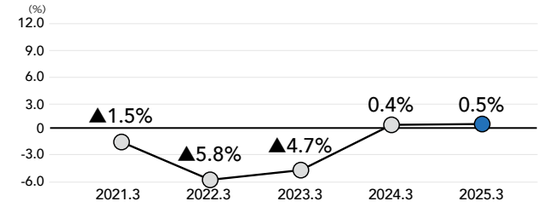
※ 百万円未満は切り捨て

純資産額／自己資本比率



※ 百万円未満は切り捨て

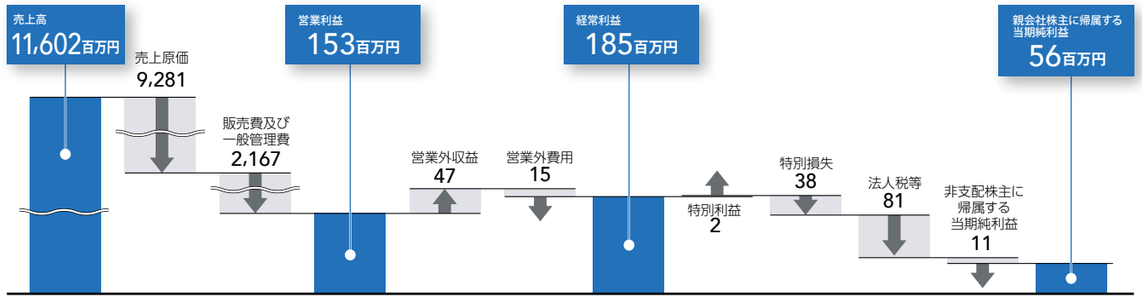
ROE（自己資本利益率）



連結損益計算書

(百万円)

当期（累計）（2024年4月1日～ 2025年3月31日）

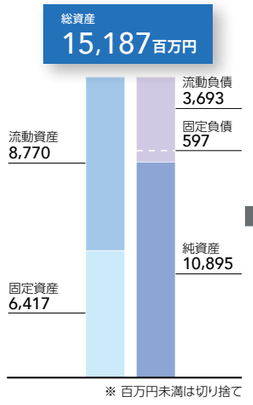


※ 百万円未満は切り捨て

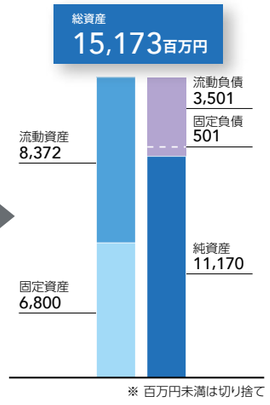
連結貸借対照表

(百万円)

前期末（2024年3月31日）



当期末（2025年3月31日）

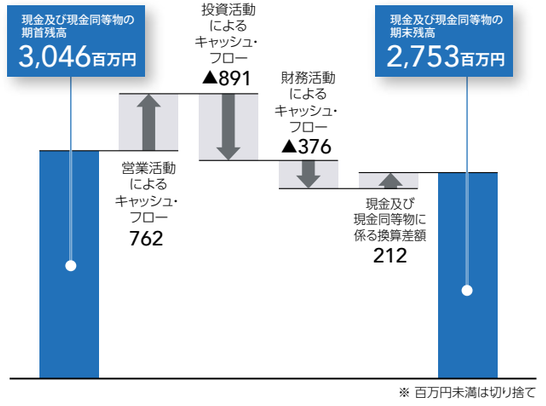


※ 百万円未満は切り捨て

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

当期（累計）（2024年4月1日～ 2025年3月31日）



※ 百万円未満は切り捨て

[見通しに関する注意事項] 当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見通しおよび計画に基づいた将来予測です。
これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

国内の主要な事業所（2025年3月31日現在）

① 本社・京田辺工場
京都府京田辺市薪北町田13

① 宇治田原工場
京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14

熊谷営業所
埼玉県熊谷市桜木町2-88

京都営業所（宇治田原工場敷地内）
京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14

浜松営業所
浜松市中央区高丘西3-12-3

岡山営業所
岡山市北区今8-8-8

名古屋営業所
名古屋市名東区高社2-127

熊本営業所
熊本市東区長嶺南1-1-7

関連会社（2025年3月31日現在）

② ニチダイフィルタ株式会社（宇治田原工場敷地内）
京都府綴喜郡宇治田原町禅定寺塩谷14

③ NICHIDAI（THAILAND）LTD.
700/882 Moo 5, Tb. Nhongkakha Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand

④ THAI SINTERED MESH CO., LTD.
Saha Group Industrial Park, 99/8 Moo 5, Tambol Pasak, Amphur Muang Lamphun 51000 Thailand

⑤ NICHIDAI U.S.A. CORPORATION
1446 Reynolds Road, Suite 303, Maumee, OH, 43537, USA

⑥ NICHIDAI ASIA CO., LTD.
700/882 Moo 5, Tb. Nhongkakha Ap. Phanthong Chonburi 20160 Thailand

金型事業　精密部品事業　フィルタ事業

本社

京田辺工場

宇治田原工場

NICHIDAI（THAILAND）LTD.

THAI SINTERED MESH CO., LTD.
※吸収合併を実施（2025年7月に効力発生予定）

会社概要（2025年3月31日現在）

社名 (英文表記)	株式会社ニチダイ NICHIDAI CORPORATION
証券コード	6467
本社所在地	京都府京田辺市薪北町田13
創業年月日	1959年5月5日
設立年月日	1967年5月1日
資本金	14億2,992万円
従業員数	338名（単独） 639名（連結）

役員（2025年6月25日現在）

代表取締役社長執行役員	伊藤 直紀	
取締役	中村 篤人	ニチダイフィルタ株式会社 代表取締役社長 兼 タイ・シンタードメッシュ社長
取締役	山根 隆義	監査等委員（常勤）
社外取締役	竹田 千穂	監査等委員
社外取締役	黒田 健	監査等委員

株式の状況（2025年3月31日現在）

発行可能株式総数	15,500,000株
発行済株式の総数	9,053,300株
単元株式数	100株
株主数	4,647名

大株主 株主名	持株数	持株比率
有限会社ジャスト	885,600	9.78%
田中克尚	477,188	5.27%
ニチダイ従業員持株会	379,541	4.19%
中棹知子	282,600	3.12%
永井詳二	270,000	2.98%
古屋啓子	252,600	2.79%
株式会社三菱UFJ銀行	217,600	2.40%
高見千秋	154,600	1.70%
大阪中小企業投資育成株式会社	154,000	1.70%
古屋元伸	140,100	1.54%

所有者別分布

- 個人・その他 …… 4,520名
- その他の法人 …… 59名
- 外国法人等 …… 35名
- 金融商品取引業者 …… 24名
- 金融機関 …… 8名
- 自己名義株式 …… 1名

所有者別株式数分布

- 個人・その他 …… 5,879,897株
- その他の法人 …… 1,876,305株
- 金融機関 …… 695,900株
- 金融商品取引業者 …… 310,498株
- 外国法人等 …… 288,504株
- 自己名義株式 …… 2,196株